



連携事例23

R5.8 更新

地域の福祉は地域市民の手で

ちば
コラボ大賞
受賞事例



会員の方たちとのバスハイク旅行の様子です。

■協働パートナーの種別

NPO	企業	行政	教育	地縁
-----	----	----	----	----

■事業運営団体

特定非営利活動法人生きがいと助け合いSSU市川

■協働パートナー

- ☆塩焼地区自治会連絡協議会 ☆東行徳自治会
- ☆塩焼3丁目自治会 ☆塩焼5丁目自治会
- ☆行徳ハイム自治会 ☆塩焼2丁目自治会

■事業費

5,981万円

■資金調達手段

事業収入・助成金・寄附・会費

事業概要

発足当初は、SSU市川は塩焼地区自治会連絡協議会及び各塩焼自治会と連携し、サロン活動、助けあい活動あるいは福祉有償運送等を中心に有償ボランティアとして活動をはじめましたが、途中、介護保険制度や支援費制度が始まったこともあり、その制度を使ったサービスも行っております。又、今では家族会や大人食堂も行っています。

協働までの経緯

数名の発起人が上記の課題を解決し、一人でも多くの方が個人として尊重され、自由や幸福を得ることができるようにお世話をしたいと考えたのが目的です。

この発起人達が塩焼地区に住む会社を定年になった男性や子育てが一段落した女性達に呼び掛けたところ、計28名の有志の者が集まり、1999年3月にSSU市川が設立されました（スタート時の法人名は、塩焼シルバー・サービス・ユニオン）。

又、地域の福祉を地域の住民で進めるにあたり欠かせないのが、自治会との連携です。発起人たち自身も自治会活動をしていた関係もあり、塩焼には1～5丁目までありますが、その5つをとりまとめる塩焼地区自治会連絡協議会及び各塩焼自治会の協力と応援を取り付ける事ができました。その為、発足当初から、各自治会の人達がSSU市川の理事、監事、運営スタッフ等々の役割を担ってきており、現在では各自治会の会長5人がSSU市川の顧問となっております。

因みに、事業とは、SSU市川が行う事業全体を地域の自治会と連携して行うことを指し、一つひとつの細かい事業の事ではありません。なぜなら、SSU市川と地域の自治会とは全体的に密接に関係しているからです。

主な事業内容(年間スケジュール等)

- ①助けあい活動：雑草取り、調理、掃除、洗濯、買い物、通院介助、その他の家事雑事。
- ②制度を使った事業（訪問介護・居宅介護・ケアプラン作成・計画相談作成等）：調理、掃除、洗濯、買い物、入浴介助、身体介助、通院介助、移動支援他。
- ③サロン活動：会話、歌、ゲーム、物を作る、描く、体操する、バスハイク、各イベント他。
- ④福祉有償運送：通院、通所、通学、通勤、レジャー、買い物、お墓参り他。
- ⑤家族会：オレンジカフェ（認知症カフェ）。認知症である人の家族の集まり
- ⑥大人食堂：特に独居の方中心に集まって食事会をする。

計画は地域の自治会の方々と密に連絡を取り合い住民の現状の把握や対策についてを話し合ってきました。実施している地域は塩焼地区を中心とした市川市の南部地域（一部北部もあり）で、時期は1年中行っています。事業の対象となる方は高齢者や障がい者です。その他、地域の学校の生徒に

ボランティア体験をしてもらったり、地域の中学校のキャリア教育セミナーに参加し子供たちに福祉の説明を行ったり、生涯大学に向向き、SSU市川のたすけあいの活動等を説明したりしております。

📍 主な協働パートナーとの役割分担

【NPO】 SSU市川

- ・上記事業内容を主体的に行っています。
- ・地域の各自治会が行う夏祭りや餅つき大会等のイベントに協賛しています。
- ・地域の方に活動参加をしていただき、生きがいややりがいを感じて貰っています。

【地縁団体】

- ・地域の各自治会（地縁団体）が、SSU市川の活動をロコミ、回覧、掲示等を使いアピールをしています。また、運営スタッフの募集についても同方法によって行っています。
- ・SSU市川に対して地域の情報提供や運営におけるアドバイス等を行っています。

♡ コラボのコツ!!

SSU市川と塩焼地区自治会連絡協議会及び各塩焼自治会とが連携を深めることにより、お年寄りや障がい者の方達の現在の在り方やニーズ等の情報交換をすることができ、それを基に事業に生かすことができます。また、各自治会主催の夏祭りや餅つき大会等のイベントにそのお年寄りや障がい者の方達が出席する事で楽しんでいただいています。塩焼地区に住んでいる方が、事業を運営するスタッフとしてかかわることで地域の結びつきや地域貢献に役立っています。

📍 今後力を入れていきたいこと

事業の継続については、今後もより一層関係を深めて継続していきます。今後の新しい試みの一つとして、塩焼5地区の住民に対して、訪問ヘルパーの資格取得の補助金制度を検討しています。特に会社をリタイアした人達を考えており、まだ社会で活躍できるので、そのような人たちに資格を取って働いてもらいたいと考えております。

📍 協働事業によって生まれた成果

【NPO】 SSU市川

- ・SSU市川は、スタート時では事務所も車も資本金も無く、その為、個人の家や車や電話を使うなど全て持ち寄りで行い、まさに手弁当の有償ボランティア団体でした。しかし、塩焼地区自治会連絡協議会及び各塩焼自治会の応援があったおかげで事業が大きく成長し、今では土地や建物や車等を所有し、一年間の売上が93,185,312円、経常利益が6,504,516円、運営会員が130名となる組織へと成長出来ました（令和2年4月1日現在）。

【地縁団体】

- ・塩焼地区自治会連絡協議会及び各塩焼自治会（地縁団体）が、SSU市川と連携することによって、地域の福祉活動やボランティア活動に協力や参加することができ、人助けによるやりがいや生きがいを得ることができています。
- ・地域の人たちとのふれあいや交流の場が与えられます。



協働事例プロフィール

【活動開始年】 1999年3月 【活動のPR手法】 ホームページ <http://ssuichikawa.jp/>

【この事業で活用した補助金】 ①日本財団 軽リフト福祉車両助成（2001・2014）
②日本財団 普通リフト福祉車両助成（2007）
③中山馬主協会 冷暖房機助成（2019）

【表彰歴・マスコミ掲載歴等】 第1回読売プレデンシャル福祉文化賞・奨励賞（2003年10月）、ちばコラボ大賞（令和2年）市川読売、京葉タイムス、行徳新聞、読売新聞他（2000～多数回掲載）

【問い合わせ先】 担当者：栗山 英仁 電話番号：047-359-9888
メールアドレス：tasukeai@ssu-ichikawa.jp